

2013年8月（日本国大使館）

安 全 情 報

～2012年中におけるカンボジア国内交通事故発生状況～

「自分の身は自分で守る。」をモットーにカンボジアライフを楽しく、良い思い出をつくるため、安全情報を提供させていただきます。

1 2012年中におけるカンボジア国内の交通事故発生状況は、下記表のとおり4,305件で、前年に比べてマイナス791件と全体的には16パーセント減少していますが、交通事故死者数は2010年1,709人、2011年1,893人、2012年1,894人と、年々増加しています。

又、今月上旬にも、プノンペン市内で、在留邦人の方がオートバイを運転時に交通事故に遭って不幸にも亡くなるという事案が発生しています。

交通事故形態	2012年	2011年	増減
交通事故発生数（件）	4,305	5,096	-791件(-16%)
死者（人）	1,894	1,893	+1人(+0.1%)

2 日本国内における2012年の交通事故による死者数は4,663人で、人口当たりの交通事故死者数は、日本国内では約**27,300人に1人**の方が交通事故で亡くなっているのに対し、カンボジアでは国民の約**7,075人に1人**が交通事故で亡くなっており、死亡事故発生率は日本の**3.86倍**にも上ります。

3 警察によりますと、交通事故の主な原因として、スピード違反、飲酒運転、無免許による未熟運転、無謀運転、不注意運転等が挙げられており、死亡事故の90パーセント以上がオートバイ乗車時の事故で、死因の大多数がヘルメット未装着による脳挫傷だそうです。

又、殆どの方が交通事故保険に加入していないため、交通事故発生時の補償は期待出来ません。

4 カンボジアは日本に比べて、交通法規に対する遵法意識が低く、無免許運転、ノーヘル運転、飲酒運転、定員外乗車運転等の交通違反が多いため、カンボジアに渡航・滞在される方は交通事故に逢わないよう、以下の点に注意して行動するよう、心掛けて下さい。

(1) 歩行時

- 出来る限り歩道を歩く。又、幼児や子供と一緒に歩く場合は手を繋ぐ。
- 道路を横断する時は、信号機のある場所を横断する。信号機のない場所を横断する時は、車両が無いのを確認して横断する。又、手を大きく上げて、ジェスチャーにより、道路を横断することを車両に知らせる。

(2) 車両乗降車時

- 車両乗車時に必ずシートベルトを着装する。
- モトドップ（オートバイタクシー）は、事故が発生した場合に大怪我に繋がる可能性が高い為、出来る限り利用しない。
- 車両乗車時は、歩道側（右側）から乗降車し、後方からオートバイが来ないのを確認した後にドアを開ける。又、子供を車両から乗降車させる際は、ドアの開閉は大人が行う。

(3) 車両運転時

- 車を運転する際はシートベルト、オートバイを運転する時は必ずヘルメットを着装する。
- 有効な運転免許証を携帯する。
- スピードを出しすぎない。又、交通法規を遵守する。
- 夜間の運転は控える。又、止むを得ず夜間に運転する場合は、交差点の信号機が点滅信号になっていることが多い（車両双方に安全確認の義務が生じる）為、交差点に進入する際は安全確認を怠らない。
- 飲酒運転は絶対にしない。
- 日頃から車両の手入れを怠らない。
- 事故にあった場合は早急に保険会社又は、警察に通報する。

(4) その他

- レンタルバイクは整備不良の状態であることが多く、事故に繋がる可能性があることから利用しない。
- カンボジアで車両を運転する場合は、必ず当地で運転できる運転免許証（カンボジア国内運転免許証、国外運転免許証）を事前に取得する。又、交通事故保険にも出来る限り加入する。
- ※ 日本の運転免許証を取得している方が、カンボジア国内運転免許証を取得する為には、当館発行の翻訳証明が必要です。

翻訳証明発給に必要なもの

- ・ 旅券
- ・ 有効な日本の運転免許証
- ・ 申請手数料 100,000 リエル（料金は2014年3月31日迄有効）

○ 海外旅行保険に出来る限り加入する。

※ カンボジア国内の医療機関で対応出来ない大怪我を負ったり、重篤な病気に罹ったりした場合、近隣諸国や日本に医療搬送する必要があります。その際、数百万円の搬送費用が掛るケースもあることから、旅行者
在留者を問わず、「転ばぬ先の杖」として、緊急搬送をカバーした海外旅行保険に加入するように努めてください。

～「自分の身は自分で守る」をモットーに交通事故防止に心掛け、カンボジア
ライフを楽しく過ごして下さい。～